

4-3 スポーツ編

【横須賀市スポーツ振興基本計画】



横須賀市中学校駅伝競走大会
男子：第61回　　女子：第27回

4-3 スポーツ編 「豊かなスポーツライフの実現」

横須賀市スポーツ振興基本計画

現状と課題

スポーツは、健康な体をつくり、達成感、連帯感を育てるなど、人が本来持っている根源的な欲求を満たす大きな力を持っています。

これまで横須賀市のスポーツ行政では、市民の生涯スポーツ社会の実現のために、スポーツ活動の推進、支援、スポーツ環境の整備などを行ってきました。

複雑化、利便化した社会で、体力の低下や、ストレスの増加などが問題となる中で、市民一人一人がスポーツ活動を継続的に実践できる豊かなスポーツライフを実現するために必要な施策を講じ、社会の現状と課題をスポーツで解決する視点で捉えます。

また、本市においては、このスポーツ編を「横須賀市スポーツ振興基本計画」として位置付けることとします。(103 ページ参照)

1 子どもの生活習慣の乱れと体力の低下

運動機会の減少や生活習慣の乱れが生じており、子どもの体力は長期的に低下傾向にあることが課題となっています。

児童生徒へのアンケート調査（平成 21 年度実施 小学校 4～6 年生、中学校 1～3 年生対象）によると、本市において、体力や運動実践での二極化が進んでおり、学年の進行に伴いスポーツや運動が好きではないと答える子どもの割合が増加しています。

平成 21 年度「体力・運動能力調査」について、小学校 5 年生と中学校 2 年生で全国と本市の結果を比べると、「体力・運動能力調査」の得点は、小中学生とも半数以上の種目で全国平均を下回っています。同調査で生活習慣について、毎日朝食を取る割合を比べると、小中学生とも全国平均を下回り、中学生の方がその差が開いています。また、小中学生において体力との関係で最適といわれている睡眠時間（小学生は 8 時間以上、中学生は 6 時間以上 8 時間未満）については、その割合が、小学生では全国を若干上回り、中学生は全国を大きく下回っています。

このことから、子どもの体力を向上させるためには、学校、家庭が連携し、健康・体力への意識を高め、生活習慣を改善し、体を動かすことを習慣化することが必要になってきています。

2 社会人のストレス、生活習慣病の解消

働き盛りの中年層においては社会の情報化、利便化が進む中で、社会人のストレス、生活習慣病増加など、心身両面にわたる健康維持が課題となっています。

本市のスポーツアンケート結果によると、成人のスポーツ実施状況については、週 1 回以上のスポーツ実施率は約 49%であり、国の目指している 65%以上を下回る結果となっています。

また、スポーツをする理由を尋ねてみると、「健康・体力づくりのため」と回答した方の割合が

約 81%となっています。なお、スポーツをしていない方の約 73%は現状に満足せず、スポーツをしたいと感じています。

このことから、心身両面にわたる健康維持のためにスポーツをすることへの潜在需要はあると判断できます。この潜在需要に応えることで、スポーツの効果により、課題が解消されることにつながります。

3 健康寿命の延伸、生きがいづくり

高齢化が進む中で、健康寿命の延伸、生活習慣病予防、生きがいづくりなどが課題となっています。

平成 35 年には、ほぼ 3 人に 1 人が 65 歳以上になるといわれています。このような社会において生涯にわたり健康的で明るく、活力ある生活を送ることが、社会全体の活力の維持のためにも強く求められている状況となっています。

そこで、高齢者がスポーツを通して、地域・仲間とつながりを持ち、自己実現や生きがいを感じてもらふことにより、課題が解消されることにつながります。

4 市民の相互交流

市民の相互交流、連携する機会が少なくなっており、地域の人間関係の希薄化が課題となっています。

本市のスポーツアンケートの結果によると、成人のスポーツや運動を行っている理由として約 81%の方が「健康・体力づくりのため」と回答している一方で、「仲間づくりのため」と回答している方も約 12%います。

また、主にだれとスポーツや運動をするのかの問いに対しては、「ひとりで」と回答した方が半数以上を占め、次いで友人、家族、クラブ・チームの仲間の順となっており、近隣の住民とスポーツをする割合は低い結果となりました。

このような状況の中で、変化する市民のニーズを把握しながら、市民自らが主体的にスポーツ活動に取り組めるような環境づくりを推進していくことが必要になってきています。

今後3年間の取り組みの方向性

スポーツ編では、今後11年間を通じて「豊かなスポーツライフの実現」を目指します。

市民一人一人がスポーツ活動を継続的に実践できる「豊かなスポーツライフの実現」を目指すためには、例えば、市民の健康・体力づくりの推進、施設の整備、スポーツに触れ合い、参加したり、観戦したり、応援したりする人への支援などのさまざまな施策を展開することが必要です。

そのため、これからの3年間、3つの目標を掲げ、11の施策および関連事業に取り組みます。

目標1 子どもの生活習慣を改善し、体力の向上を図ります

近年、学校体育や健康教育の充実は、その必要性・大切さが掲げられています。なぜなら、学校体育で経験するスポーツは、人間として他を思いやる気持ちや、勝敗により一喜一憂するなどの豊かな心を育てるとともに、体の成長を促す重要な役割を果たします。そして、個々に適したスポーツの能力が開発された場合は、競技スポーツの活躍の場へと導くことが可能です。子ども時代の豊かなスポーツ体験は、スポーツを生涯楽しもうとする習慣をも育てることになり、健康で生き生きとした生活を送る基盤にもなります。

また、運動部活動においては、目標を同じくする仲間との連帯感や協調性を育み、責任の重要性を改めて感じるとともに、スポーツの専門性を高めることができます。しかし、現在、学校の運動部活動においては、少子化による部員の減少や専門的な指導ができる顧問の不足などにより、活動はかなり厳しいことが現実です。

学校教育の中ではこのような現状を踏まえ、体育授業や学校教育全体での体力向上への取り組みやスポーツに親しむ環境づくりを通して、スポーツの楽しさや大切さが理解されるよう学習を進めます。

施策（１）生活習慣の改善および健康・体力づくりの推進 -----

学校、家庭が連携を図り、健康・体力づくりへの意識を高め、規則正しい生活習慣を確立し、体を動かすことを習慣化することで、子ども一人一人の健康・体力づくりを目指します。

[関連事業]

事業名	児童生徒健康・体力向上推進事業【スポーツ課】				
概要	市内全体の児童生徒の健康体力、運動習慣の状況について把握します。それぞれの調査結果を検証、対策について検討し、それぞれの調査結果や相関関係を児童生徒および保護者に提供します。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会	開催	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	体力・運動能力調査	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒

[学校教育編：再掲]健康教育・食教育の推進【学校保健課】（22 ページ参照）

[学校教育編：再掲]生活習慣向上推進事業【教育政策担当】（41 ページ参照）



小学校児童陸上記録大会



表現運動・ダンス発表会

施策（２）体育・健康教育の充実 -----

体育・保健体育科の授業において、基礎的な身体能力の育成を図るとともに体育的行事などを充実させます。

[関連事業]

事業名	学校体育授業サポート事業【スポーツ課】				
概要	学校からの要望に応じて、市体育指導委員 ^(注 68) を学校体育授業のサポーターとして派遣します。事前に安全管理や救急法などについての研修を行います。				
行動計画	項目	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
	必要な知識などの研修会	—	—	実施	⇒⇒⇒
	学校体育授業サポーター	—	—	—	派遣

事業名	新体力テスト ^(注 69) 測定員養成事業【スポーツ課】				
概要	学校からの要望に応じて、市体育指導委員を新体力テスト測定員として派遣します。事前に測定員研修を行います。				
行動計画	項目	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
	測定員研修	—	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	新体力テスト測定員	—	—	派遣	⇒⇒⇒

[学校教育編：再掲]健康教育・食教育の推進【学校保健課】(22 ページ参照)

[学校教育編：再掲]喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する教育の推進【学校保健課】(22 ページ参照)

施策（３）運動部活動の活性化

運動部活動指導者派遣や全国大会出場などへの支援を行うことにより、運動部活動を活性化させます。

[関連事業]

事業名	運動部活動指導者派遣推進事業【スポーツ課】				
概要	市立中学校運動部活動活性化のために、指導の困難性、内容に危険度のある競技種目を中心に指導者を派遣して、生徒のニーズに応えるとともに、顧問の負担軽減と、部活動の活性化を図ります。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	運動部活動指導者	派遣	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒

事業名	全国大会出場などへの支援事業【スポーツ課】				
概要	市立横須賀総合高等学校に対し、部活動指導者の派遣などを行い、技術向上、レベルアップを図り、全国大会出場を目指します。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	部活動強化育成検討委員会	—	設置・検討	検討	⇒⇒⇒
	運動部活動指導者	派遣	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	運動部活動強化のための備品購入	実施対象 変更	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒



中学校総合体育大会 総合開会式



全国・関東中学校体育大会
出場選手 激励会

目標2 だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむ ことができる機会を充実させます

生涯スポーツは、体を動かすことによる爽快感や達成感とともに、仲間づくりや健康増進につながります。そして、自らが体を動かすだけでなく、関心を寄せ、観戦したり、応援したりすることもスポーツ活動の一環です。また、スポーツ団体における活動や、知識・技術を生かしたスポーツボランティアなどの社会参加は、体力の維持や精神的な充足が期待できます。

市民のだれもが生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しむことができる市民社会を実現するためには、体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツ・レクリエーションを楽しめる機会の提供と環境づくりが重要です。

そのためには、日頃スポーツをする機会の少ない市民がスポーツを始める機会や基礎技術習得の機会を提供する必要があります。

また、従来の単一種目を中心とした公共施設を拠点とする地域スポーツクラブだけでなく、市民が主体的に運営し、だれもが性別、年齢、障害の有無などに関わらず複数の種目に参加できる総合型地域スポーツクラブ^(注6)の育成や地域の特色を生かした楽しむスポーツの普及も重要です。

また、スポーツ振興には、指導者や機会の充実だけでなくスポーツを楽しむための施設の充実も重要なことです。

現在、本市のスポーツ施設の利用に関しては、学校行事や体育協会加盟団体の大会などを考慮しつつ、市民が幅広く多くの機会を得ることができるよう工夫を図っています。しかし、スポーツ振興を進める結果、スポーツに親しむ市民が増加し、既存の施設の利用はますます難しくなることが予想されます。また、施設によりその利用団体が固定されているような傾向が見受けられるとの意見もあります。

限られた施設を有効に、そして最大限に活用するためには、利用方法の工夫を図っていくことも大切です。また、施設の改良や必要に応じた整備も図っていかなければなりません。さらに、市民の大切な財産であるスポーツ施設の維持を図るため、受益者負担^(注70)の原則に立ち、適正な利用料金であるかどうかなどの見直しを適宜行います。

また、市民のスポーツ情報に対する要望は多様化しており、さまざまな情報が求められているのが実情です。現在、本市のスポーツ情報の発信源は、市の広報・体育協会の広報・またインターネットによるスポーツ情報などが多くを占めています。スポーツ情報の提供者としては、その情報を能動的に得たいとする人を対象にすることも大切ですが、普段スポーツに興味のない人に対し、多くの情報を提供し、スポーツへの理解を得る努力も必要です。そのためには、従来からの紙面広報や啓発活動も依然重要な役割を担うことになります。

一方、新しい情報媒体であるインターネットは、大量の情報を瞬時に提供できる利便性があり、情報を主体的に得ようとする市民にとってはますます重要度を増すこととなりますので、一層の充実を図ります。

現在は、多種・多量の情報を提供し、また得ることができる時代ですが、情報の提供と広報活動のバランスを取り、多くの市民の目に触れるような情報提供と広報活動に努めます。

施策（４）市民の健康・体力づくりの推進

幼児から高齢者までを対象にした市民スポーツ教室について、市民のニーズに柔軟に対応しながら、充実させます。また、地域住民の身近な場所でスポーツ振興を実施している学区体育振興会^(注71)の効率的な運営を図ります。

[関連事業]

事業名	市民スポーツ教室事業【スポーツ課】				
概要	市内在住、在学、在勤の人に対して、スポーツを通しての健康づくり、スポーツの習慣化、スポーツの基礎技術の習得を目的として、市民スポーツ教室を実施します。併せて、スポーツアンケートを実施し、市民のニーズやスポーツ実施率などを把握します。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	市民スポーツ教室ガイド	作成	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	実施内容の見直し	—	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	市民スポーツ教室運営に関する打ち合わせ会	—	開催	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	市民スポーツ教室の全面運営委託化	—	検討	実施	⇒⇒⇒
	スポーツアンケート	—	検討	実施	⇒⇒⇒

事業名	学区体育振興会育成事業【スポーツ課】				
概要	地域住民の身近な場所でスポーツ振興を実施している学区体育振興会について、少子化や地域コミュニティのつながりの希薄化などの課題を踏まえ、より効果的に運営するため、活動範囲の検討・組織員の資質の向上なども視野に入れて、在り方を検討します。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	活動実態	—	把握	⇒⇒⇒	—
	学区体育振興会の在り方	—	—	—	検討

施策（５）市民が主体となる活動の支援

年齢や性別、技能の高低、障害の有無などに関わらず、多くの市民が集まり、市民が主体となっていく活動が実施できるように、環境整備を進めます。

[関連事業]

事業名	総合型地域スポーツクラブ ^(注6) 育成事業【スポーツ課】				
概要	いつでも、どこでも、いつまでも、より多くの人が生涯を通してスポーツやレクリエーションを楽しめる地域コミュニティである総合型地域スポーツクラブを育成します。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	市民の認知度の向上に係る 情報提供の充実	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	創設支援に係る調整会議の 開催および情報の提供	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	既存団体の活動拠点場所確保	—	検討・実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	各種目スポーツ団体に対する 研修会	開催	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	指導者派遣に関する情報	—	提供	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒



よこすかスポーツフェスタ
(フォークダンス)



よこすかスポーツフェスタ
(インディアカ)

施策（6）スポーツ施設の整備と円滑な管理運営の推進

市民に広く、スポーツなど社会体育^{（注 72）}の場を提供するため、市内の体育施設を円滑に管理運営します。

〔関連事業〕

事業名	学校体育施設開放奨励事業【スポーツ課】				
概要	青少年および一般地域住民のスポーツ愛好団体などにスポーツやレクリエーションの場として、学校体育施設を開放し、健全な余暇利用を促進します。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	学校開放運営委員会への支援	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	学校開放運営委員会の在り方	検討	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒

事業名	体育会館運営方法の検討【スポーツ課】				
概要	市民がスポーツに親しむ機会を最大限提供するため、体育会館指定管理者 ^{（注 73）} と協力し、体育会館施設の運営方法を検討するとともに計画的な施設整備を行います。 なお、検討結果については、指定管理者更新年度である平成 26 年度に反映します。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	体育会館利用方法	検討	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	体育会館整備計画	策定	随時更新	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒



横須賀アリーナ



佐島の丘温水プール（イメージ）

施策（7）スポーツ情報提供の充実

ホームページなどを充実させることで、多くの方にスポーツ情報を分かりやすく提供します。
また、必要な人に必要な情報が提供されるようにします。

[関連事業]

事業名	横須賀市スポーツ行政に関するホームページの充実【スポーツ課】				
概要	横須賀市のスポーツ行政に関するホームページについて、現在の「スポーツ元気アップ横須賀」と「活躍する子ども達」を統合して、新たに「横須賀市スポーツ行政に関する総合ホームページ」を開設し、掲載内容を充実させます。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	「スポーツ元気アップ横須賀」掲載内容の充実	実施	内容を精査の上、統合	—	—
	「活躍する子ども達」掲載内容の充実	実施	名称変更	—	—
	横須賀市スポーツ行政に関する総合ホームページ	—	公開	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒

事業名	広報よこすか掲載内容の充実【スポーツ課】				
概要	スポーツ関係の各種イベント、行事の開催記事を広報よこすかに掲載する他、手軽にできるニュースポーツやラジオ体操ワンポイントレッスン紹介記事など企画記事も積極的に掲載し、市民のスポーツに対する関心を高めます。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	広報よこすか（適宜掲載）	活用	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒

事業名	マスコミへの情報提供の充実【スポーツ課】				
概要	スポーツ関係の各種イベント、行事の開催記事を積極的に報道機関に周知し、マスコミを活用して市民のスポーツに対する関心を高めます。 また、マスコミを活用して市外にも情報発信を行い、交流人口によるスポーツイベントなどの活性化を図ります。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	地元放送局	活用	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	新聞、タウン誌など	活用	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒

事業名	スポーツ・レクリエーションマップの作成事業【スポーツ課】				
概要	市が保有するスポーツ・レクリエーション施設や運動公園などの場所、実施可能なスポーツの種目、遊具などを地図上に明示し、施設の利用料金・時間、スポーツ教室の有無をだれでもが簡単に見て調べることができるマップを作成し、配布、ホームページへの掲示などを行います。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	スポーツ・レクリエーションマップ	—	検討・作成	配布 ホームページ 公開	⇒⇒⇒



春季レクリエーションスポーツフェスタ
(バウンドテニス)



春季レクリエーションスポーツフェスタ
(ペタンク)

目標3 競技者の活動を支援するとともにスポーツ愛好者の裾野を拡大します

多くの市民がスポーツに興味を持ち、それぞれの実情に応じて取り組みやすい環境をつくることによって、スポーツ愛好者の裾野を拡大します。

トップレベルのスポーツ選手の活躍は、それを目指す多くのスポーツ愛好者の憧れであり、市民に夢と希望と活力を与えるものです。このようなトップレベルの選手やチームのプレイに直接触れることができる機会を充実させます。

さらには、これらが相互に影響し合うことによって、市全体のスポーツ振興につながります。

施策（8）国際大会や全国大会で活躍する競技者の育成と支援

国際大会や全国大会で活躍する競技者を育成し、支援します。

[関連事業]

事業名	各種大会選手派遣支援の推進【スポーツ課】				
概要	本市から国際大会や全国大会に出場する選手に報奨金などを交付することにより、選手の負担軽減と代表選手としての意識の高揚を図ります。また、県内駅伝大会に本市代表選手団を派遣し、スポーツを通じて他都市との交流を深めます。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	国際大会および全国大会出場者への報奨金	交付	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	県内駅伝大会への選手派遣	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	国民体育大会壮行会	開催	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒

施策（9）ホームタウンチームなどとの連携強化

本市のホームタウンチームである横浜ベイスターズ（野球）、横浜F・マリノス（サッカー）、東芝ブレイブサンダース（バスケットボール）などによる地域活動や教育現場での交流を通して、トップレベルのスポーツに触れることで、卓越した技能の体験を通して夢や感動を与えます。

[関連事業]

事業名	よこすかドリーム・スポーツプロジェクト推進事業【スポーツ課】				
概要	本市のホームタウンチームである、横浜ベイスターズ、横浜F・マリノス、東芝ブレイブサンダースなどのトップレベルのスポーツ選手・コーチ達と直接授業で共に体を動かし触れ合うことで、子どもに夢と感動を与え、スポーツへの関心を高めます。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	学校訪問授業	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	スポーツイベントへの参画	依頼	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	各チーム担当者会議	—	開催	—	開催

<よこすかドリーム・スポーツプロジェクト>



東芝ブレイブサンダース



横浜ベイスターズ



横浜F・マリノス

施策（10）各種スポーツ団体への協力と支援

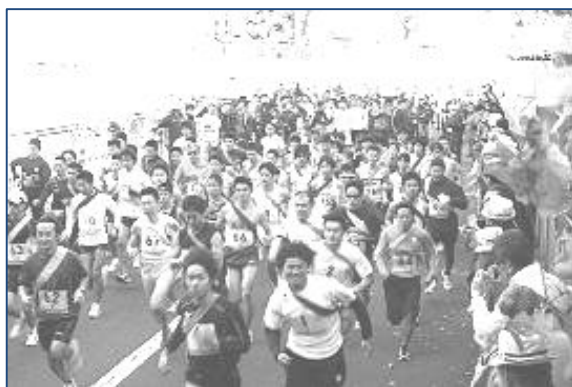
各種スポーツ団体の競技力向上と、多くの市民を呼び込む活動をバランス良く展開することで、効率的なスポーツ振興を図ります。

[関連事業]

事業名	各種スポーツ団体支援の推進【スポーツ課】				
概要	各種スポーツ団体の育成、また選手育成と競技力向上のため、各種スポーツ団体を支援し、本市体育・スポーツの振興を図ります。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	各種スポーツ団体への支援（市体育協会・市レクリエーション協会・市スポーツ少年団・学区体育振興会 ^(注71) ）	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	各種大会への支援	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	選手強化事業への支援	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	国民体育大会選手強化事業への支援	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒

事業名	各種競技大会開催、支援の推進【スポーツ課】				
概要	市民に広く親しまれている競技大会を主催し、主管団体への支援を進めていくことで、地域のスポーツ振興および市民の健康体力増進、競技力向上を図ります。また、各種競技を通じて、青少年の心身の健全育成を図ります。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	横須賀市少年野球大会	開催	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	市民駅伝競走大会	開催	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	三浦半島県下駅伝競走大会	開催	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	駅伝競走大会の実施方法（コースなど）	—	再検討	—	—

事業名	各種スポーツ団体の自立化事業【スポーツ課】				
概要	現在、各種スポーツ団体の事務局がスポーツ課内に置かれており、本市スポーツ振興のための側面的支援を行っていますが、生涯スポーツ社会の実現のためには、団体が自立して活動を行うことが重要です。そこで、各種スポーツ団体の在り方を検討し、自立化のために必要な支援を行います。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	活動実態	—	把握	⇒⇒⇒	—
	各種スポーツ団体の運営の在り方	—	—	—	検討



市民駅伝競走大会



学区対抗成人ソフトボール大会



学区対抗児童ミニバスケットボール大会

施策（11）スポーツ指導者の育成と確保

スポーツを直接指導するだけでなく、広く市民にスポーツの素晴らしさを伝えたり、スポーツを通じて多くの人々が交流を図るためのコーディネーター役を担ったりするなど、スポーツの普及振興の大切な役割を担っているスポーツ指導者の育成と確保を図ります。また、市民にとって最も身近な存在である市体育指導委員^{（注68）}に対して、地域住民のニーズにより一層応えられるよう資質の向上を図ります。

[関連事業]

事業名	スポーツ指導者育成交流事業の推進【スポーツ課】				
概要	スポーツ振興審議会の中に指導者育成連携強化委員会を設け、スポーツ指導者の育成研修会と交流会を実施します。実施に当たっては、スポーツを気軽に楽しみたい人や健康増進を目的として、運動・スポーツを行いたい人に対応できる指導者を主眼に育成、連携強化を図ります。また、地域の実態や住民のニーズに対応した指導者の資質を高めます。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	指導者育成連携強化委員会	—	設置・開催	開催	⇒⇒⇒
	育成研修会	—	開催	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	交流会	—	開催	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒

事業名	横須賀市スポーツ指導者協議会などとの連携強化【スポーツ課】				
概要	地域のために、スポーツを通して健康体力づくりを目指している横須賀市スポーツ指導者協議会などとの連携強化を図ります。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	市民スポーツ教室への講師派遣	依頼	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	市民スポーツ教室運営に関する打ち合わせ会（再掲）	—	開催	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	スポーツイベントへの役員派遣	依頼	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒

事業名	市体育指導委員 ^(注68) 育成事業【スポーツ課】				
概要	市体育指導委員に対する普通救命講習会・各種スポーツ研修会などの実施体制を含めた育成方法を検討します。また、近年、欠員が生じている状況を踏まえ、人数や推薦方法・職務などについても検討します。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	活動実態	—	把握	⇒⇒⇒	—
	市体育指導委員の在り方	—	—	—	検討

事業名	神奈川県スポーツリーダーバンク利用促進事業【スポーツ課】				
概要	指導者の育成と確保により小学校や中学校の体育・スポーツ指導、スポーツ教室への講師派遣など広範囲のスポーツ指導のニーズに応えられるように、神奈川県スポーツリーダーバンクへの登録利用促進を図ります。				
行動計画	項目	22年度	23年度	24年度	25年度
	登録利用促進	—	実施	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒
	市独自制度の導入	—	検討	⇒⇒⇒	⇒⇒⇒



体育指導委員研修会

目標指標（スポーツ編）

スポーツ編の各目標の達成状況を測り、施策・事業を展開する上で参考とする指標について、掲載しています。

指標名	体力・運動能力調査の結果	関連目標	目標1:子どもの生活習慣を改善し、体力の向上を図ります
		関連施策	施策(1)生活習慣の改善および健康・体力づくりの推進
概要	新体力テスト ^(注 69) 合計点の平均値(小学校5年生、中学校2年生)から、子どもの体力状況を測ります。		
基準値	【小5】 男 53.26 点 女 51.62 点 【中2】 男 41.41 点 女 48.01 点 (21 年度)	目標値 (25 年度末)	【小5】 男 55.7 点 女 56.3 点 【中2】 男 43.0 点 女 49.7 点 * 19～21 年度の国の最高値を切り上げ

指標名	市民スポーツ教室の参加人数	関連目標	目標2:だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます
		関連施策	施策(4)市民の健康・体力づくりの推進
概要	市民スポーツ教室の参加人数から、市民の健康・体力づくりの状況を測ります。		
基準値	2,321 人 (21 年度)	目標値 (25 年度末)	2,930 人 * 19～21 年度の最高値を切り上げ

指標名	成人の週1回以上のスポーツ実施率	関連目標	目標2:だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます
		関連施策	施策(4)市民の健康・体力づくりの推進
概要	成人の週1回以上のスポーツ実施率から、市民のだれもが生涯にわたりスポーツに親しむ生涯スポーツ社会の実現状況を測ります。		
基準値	49.6% (21 年度)	目標値 (25 年度末)	55% * 国の 32 年度の目標値(65%)を参考に算出

指標名	学校施設開放の利用人数 (体育館など)	関連目標	目標2:だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます
		関連施策	施策(6)スポーツ施設の整備と円滑な管理運営
概要	学校の体育館などの開放施設の利用人数から、地域におけるスポーツ活動の状況を測ります。		
基準値	1, 472, 088 人 (21 年度)	目標値 (25 年度末)	1, 473, 000 人 * 19～21 年度の最高値を切り上げ

指標名	体育会館施設などの利用人数	関連目標	目標2:だれもが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます
		関連施策	施策(6)スポーツ施設の整備と円滑な管理運営
概要	体育会館の利用人数から、生涯スポーツの活動状況を測ります。		
基準値	768, 866 人 (21 年度)	目標値 (25 年度末)	776, 000 人 * 19～21 年度の最高値を切り上げ

指標名	国民体育大会の出場人数	関連目標	目標3:競技者の活動を支援するとともにスポーツ愛好者の裾野を拡大します
		関連施策	施策(8)国際大会や全国大会で活躍する競技者の育成と支援
概要	本市在住、在勤、在学の方のうち国民体育大会に出場した人数から、各種スポーツ団体の競技力の状況を測ります。		
基準値	45 人 (21 年度)	目標値 (25 年度末)	53 人 * 19～21 年度の最高値

参考 横須賀市スポーツ振興基本計画としての位置付けについて

【計画の位置付け】

教育振興基本計画（スポーツ編）は、文部科学省が平成 12 年 9 月に告示した『スポーツ振興基本計画』（平成 18 年 9 月に一部改定）、神奈川県が平成 16 年 12 月に策定した『神奈川県スポーツ振興指針』（平成 20 年 3 月に改訂）の趣旨を踏まえます。そして、『横須賀市スポーツ振興基本計画』として位置付けることによって、本市のスポーツ活動の現状を考慮しつつ、今後のスポーツ行政の方向を示すものとしします。

そして、この計画の基本理念として市民のニーズや期待に応え、市民一人一人がスポーツ活動を継続的に実践できる「豊かなスポーツライフの実現」を目指します。

【策定の趣旨】

近年、私たちを取り巻く環境は、少子高齢化や急激な情報技術発展の下に進展する社会の中で、著しい変化をしています。年間就労時間の短縮や、学校週 5 日制の実施などにより自由時間が増加し、余暇の過ごし方なども多種多様になり、生活形態や行動様式も変化しています。

社会の複雑化、利便化の中で人間関係が希薄になったり、ストレスが増加したり、日常生活の中で体を動かす機会が減少し体力の低下が進むなど、心身両面にわたる健康上の問題が深刻化しています。

本市が平成 21 年度に実施したスポーツに関するアンケート調査の結果によると、現在スポーツや運動を行っている理由について「健康・体力づくりのため」が最も多く、次いで「楽しいから」「ストレス解消のため」でした。また、小・中学校の子どもが高学年になるにつれて授業始業前や休み時間、放課後、土日に体を動かしスポーツをする割合が減少していること、高校生の体力に対する自信が低下していることが判明しました。

また、平均寿命の伸長と出生率の長期的な低下という少子高齢化が進む中で、全国の高齢化率は平成 17 年には 20%を超え、平成 35 年には 30%を超えと言われており、高齢者の健康寿命の延伸、生きがいづくりが社会全体の活力維持のためにも重要になってきています。

この複雑化する社会の中で、市民が抱えるさまざまな課題を解決するための方法の一つとしてスポーツが挙げられるのではないのでしょうか。

ここでいうスポーツは、かつて語られていたように、競技力向上に限って考える競技スポーツや学校体育の授業・クラブ活動だけではなく、子どもから高齢者まで、障害者、初心者から上級者までというようにいろいろな人々、みんながスポーツに触れ合い、参加したり、観戦したり、応援したりすることや、健康増進のために行われるレクリエーション活動を含めた生涯スポーツを言います。市民一人一人に、何らかの形でスポーツに関わる機会を継続的に提供することは、生涯にわたって、健康で元気に生き生きと生活を営んでいくための次世代育成支援にもつながるものと考えます。

本市では、市民一人一人が生き生きとした生活を営むために必要なさまざまなスポーツに関するニーズに対して、継続的に対応できる環境づくりの推進を通して『横須賀市スポーツ振興基本計画』を策定します。

【スポーツ振興の意義】

21 世紀を迎えスピード化、合理化した現代社会の中で、ストレスの増加や人と人とのコミュニケーション不足が大きな問題となっています。

現代社会の中では「体を動かすことで得られる爽快感や達成感」「他者との対話、直接的なコミュニケーション」「連帯感」など、人が本来持っている根源的な欲求を満たす機会、意識が薄れがちになっています。スポーツは、このような根源的欲求を満たしてくれる重要な手段です。

また、スポーツは語源として“生活から離れる”の意味があり、転化して気分転換するという意味を持ちます。この“気分転換”を辞書で調べると「ふさいだ気分を換え晴らすこと」とあります。すなわち、次の活動に向けて心をリフレッシュさせる働きをも意味に含んでいます。

さらに、スポーツは、同一ルールの下で行う年齢、言葉、性別、障害の有無を超えた万民共通の言語として世代間、国際間そして地域全体のコミュニケーション手段として重要な役目を果たしています。

青少年期においては、スポーツを通して、自己責任能力や克己心、フェアプレイ精神の育成、指導者や仲間との交流などを通して互いを認め合う心や人に対する思いやり、コミュニケーション能力の向上が図られます。その他、青少年期特有のさまざまな理由による精神的ストレスの解消手段として重要な役目を果たしています。

スポーツは、自ら行う人の他に、観客として応援し、運営などをボランティアとして支援する人の自己開発や自己実現を図る手段としても重要な役目を果たしています。

本市では、スポーツを心身両面に影響を与える一つの文化として捉えます。そして、昨今の健康生活志向の中で、爽快感や達成感による精神面と、生活習慣病などの予防という身体面からもより良い効果があることを改めて認識します。さらに、活気あふれる社会の発展や心身の健全な発達に欠くことのできないものとも考え、市民一人一人のライフスタイルの中に浸透していくよう配慮します。これらの考え方を基本とし、スポーツの意義を次のように考えています。

- 1 子どもに自己責任や克己心、フェアプレイの精神を培います。
- 2 子どもの健康・体力を向上させるとともに、精神的ストレス解消、多様な価値観を認め合うことができるようになります。
- 3 爽快感、達成感、他者との連帯感などの精神的充足や楽しさ、喜びをもたらしてくれます。
- 4 スポーツを見て楽しむことやスポーツを支援するなど多様な関わりにより、自己実現を図ることが可能になります。

【本市におけるスポーツ活動発展の経緯】

本市のスポーツ活動の発展を説明するには、軍の存在を避けて語ることはできません。本市におけるスポーツの発展は、軍人や海軍工廠で働く人々の間で行われてきた大会が大きく影響しています。軍人や警察官の大会を通し、市民に次第に浸透していったという歴史があります。戦争中は官制であった体育協会は、戦後に有志の力で再建されましたが、占領時代は基地との関わりは断つことができませんでした。現在も続いている三浦半島県下駅伝競走大会が、当時の米軍横須賀基地司令官デッカー氏の理解と協力により開催できたことは、現在まで語り継がれています。国民的統制や戦意高揚に基づくスポーツ活動が中心であった戦前に比べ、戦後復興期は、既存のスポーツ団体

の活動再開や新しいスポーツ団体やレクリエーション団体の結成、また、学校現場でも指導法の工夫や講習会の実施、現在まで続く大会などが盛んに行われるようになり、現在のスポーツ振興の礎となっています。

また、戦後間もないころ、横須賀基督教社会館の米国人牧師から地元の青年たちにスクエアダンス（フォークダンス）のレコードが提供され、これが本市内ばかりではなく、県内、全国へのレクリエーション活動の振興につながっていきました。

現在、本市では、教育委員会事務局生涯学習部スポーツ課が行政的な立場で、生涯スポーツや競技スポーツおよび学校体育についてのスポーツ振興を図っています。生涯スポーツや競技スポーツにおいては、38 競技団体が加盟する横須賀市体育協会や各学区体育振興会^(注71)はもとより、横須賀市体育指導委員^(注68)協議会、横須賀市スポーツ少年団、横須賀市スポーツ指導者協議会、横須賀市レクリエーション協会などと連携を図っています。

一方、学校体育においては、横三地区高等学校体育連盟や中学校体育連盟・中学校保健体育研究会・小学校体育研究会と連携しています。さらに、市内小中学校の協力を得て学校開放運営委員会を設置し実施している学校体育施設の開放は、各地域におけるスポーツ振興に重要な役割を担っています。



昭和 30 年 10 月 第 10 回神奈川国体



昭和 53 年 11 月 メインアリーナ
完成記念試合（バレーボール）

